

公立大学法人金沢美術工芸大学
平成26年度 中間業務実績及び
中期目標期間（平成22年度～平
成25年度） 業務実績評価書

平成27年 7 月

金沢市公立大学法人評価委員会

目次

I	評価の目的	1
II	評価の対象	1
III	評価方法	1～3
	1 評価の構成	
	2 項目別評価	
	ア 法人による自己評価	
	イ 評価委員会による評価	
	3 全体評価	
IV	評価結果	3～10
	□ 全体評価	3～4
	□ 項目別評価	5～10
	1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）	
	2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）	
	3 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）	
	4 業務運営の改善及び効率化に関する目標	
	5 財務内容の改善に関する目標	
	6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	
	7 その他業務運営に関する重要目標	

I 評価の目的

第1期中期目標期間（平成22年度～平成27年度）における法人の自己評価に基づき、業務実績の進捗状況及び課題を明らかにするとともに第2期中期目標（平成28年度～平成33年度）及び中期計画の検討に資することを目的とする。

II 評価の対象

平成22年4月から平成26年11月末までの業務実績

III 評価方法

1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

2 項目別評価

ア 法人による自己評価

法人が作成した中期計画の項目ごとに、法人自らが、その進捗状況を次の4段階の評価区分により、判断理由を付して評価する。

【評価基準】

評価区分	評価内容
IV	中期計画を上回って実施している。
III	中期計画を十分に実施している。
II	中期計画を十分には実施していない。
I	中期計画を実施していない。

イ 評価委員会による評価

(ア) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(イ) 評価委員会は、(ア)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、その進捗状況を次の5段階の評価区分により評価するとともに、特筆すべき事項や改善が望まれる事項についてコメントを付す。

なお、中期計画の達成度については評価の対象期間（平成22年度～平成26年度11月末）での評価であり、最終的な達成度については第1期中期目標期間（平成22年度～平成27年度）の終了後に評価される。

中期計画	大項目（中項目）
第1	① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （教育に関する目標）
	② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （研究に関する目標）
	③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 （その他の目標）
第2	④ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
第3	⑤ 財務内容の改善に関する目標
第4	⑥ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
第5	⑦ その他業務運営に関する重要目標

※（ ）内は中項目

【評価基準】

評価区分	評価内容
S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
	※ 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
	※ 評価委員会の項目別評価が全てⅣ又はⅢ(注)
B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる
	※ 評価委員会の項目別評価のⅣ又はⅢの割合が9割以上(注)
C	中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている
	※ 評価委員会の項目別評価のⅣ又はⅢの割合が9割未満(注)
D	中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある
	※ 評価委員会が特に認める場合

(注)評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、項目の比重を考慮して評価委員会で判断

3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について記述式により評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

IV 評価結果

□ 全体評価

中期計画に定めた全ての項目が着実に実施されており、項目別評価においても全項目がA評価（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

公立大学法人への移行から平成26年11月末現在において業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢が随所に見受けられた。

以下に、大学の特色ある取組や工夫等として評価できるものを挙げる。

○ 教育の質の向上に関しては、

大学全体の教育目標と学位授与方針を策定するとともにカリキュラム改編を実施した。これに基づき金沢の文化や環境など地域特性を活かした工房教育を実践するための基礎実習棟を学内に新設し、新たな授業科目を開講した。

また、成績評価の客観性を高めるため、複数の教員による評価を行い、教員間で指導内容等の情報を共有し、教育改善につなげた。さらに、産学連携活動や社会連携活動を通じ、実社会における活動を通じた実践的な教育を推進した。

学生に対する支援としては、就職相談室を新たに設置し、キャリアカウンセラーによる定期的な就職相談体制を構築した外、学生の要望に応じ企画提案方式により新たな売店業者を選定し、利便性を向上させた。

○ 研究の質の向上に関しては、

平成の百工比照収集作成事業を継続実施し、平成25年度には蓄積された研究成果を「平成の百工比照－美大があつめたものづくりの技と意匠」展に

よって公開した。また、工業デザインの分野において著名な実績を上げた柳宗理氏の業績研究に取り組むとともに柳宗理記念デザイン研究所を設置した。教員研究の成果である教員作品を中国清華大学美術学院等で公開するとともに「アジア工芸教育交換プログラム」を通じてミャンマーを始めとしたアジア諸国との交流研究事業を行った。

○ その他の目標に関しては、

産学連携事業・地域連携事業を積極的に実施した結果、「金沢の水」を始め多くの商品開発に結実した。

医療分野における芸術の潜在的な可能性を調査研究する「ホスピタリティ・アート・プロジェクト」を金沢市立病院と連携して毎年実施した。また、地元商店街に大学の情報発信拠点である「アートベース石引」を整備し、学生作品の展示等積極的な活用を行った。

さらに、大学の知的資源の特性を生かし、社会の課題解決に貢献するため、「東日本大震災復興における芸術の果たす役割」をテーマにしたシンポジウムを五芸大（東京芸大、愛知県立芸大、京都市立芸大、沖縄県立芸大、金沢美大）の共催で開催した。

○ その他業務運営に関しては、

「2011－東京銀座－金沢－NY大展示会」を同窓会と合同で開催し、大学支援組織等との連携を強化した。さらに、企業、銀行、協同組合等と教育・研究の推進並びに地域社会の発展・活性化及び人材の育成・交流に寄与することを目的とした包括連携協定や街づくりに関する協定を締結し、所期の目的達成に向けて具体的な取組に着手した。

また、財政基盤の強化を図るため、「かなびサポーター」制度を創設し広く寄附金を募る体制を整えた。

□ 項目別評価

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
----	------------------------------

中期計画33項目のうち、Ⅳ評価（中期計画を上回って実施している。）が1項目、Ⅲ評価（中期計画を十分に実施している。）が32項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 幅広い造形教育の推進、理論系科目やマルチメディア教育の充実、教養科目と専門科目の配分の見直しを行い、「造形表現工房」科目を新設し、平成24年度にカリキュラム改編を実施した。また、語学教育の検討の結果、イングリッシュヘルプセンターを設置した。
- ・ 教育の質を保証するため、成績評価基準及び学位授与基準を定めた外成績評価の客観性を高めるため、複数の教員による評価（ピアレビュー）を同一専攻内の教員だけではなく、他専攻の教員も含めて実施し、それを全学統一の様式によって記録し、検証した。
- ・ 企業、公共団体等からの依頼により、産学連携事業や地域連携事業を取り入れた教育プログラムを数多く実践し、実社会の課題を通して経験を重ねた。また、提案したものが商品化されたり、公的機関から表彰されるなど社会から高い評価を受けた。
- ・ 学生に対する支援として就職相談室を設け、キャリアカウンセラーによる定期的な就職相談体制を構築した外、学生の要望に応じ、企画提案方式により画材等を扱う売店を選定し、利便性を向上させた。
- ・ 積極的な学生募集活動を展開するため、芸術系進学相談会への参加地域を広げるとともに画塾や予備校と連携した進学相談会を実施した。さらに、オープンキャンパスや大学ホームページ及び進学相談会にお

いて実技試験合格作品の公開を行った。また、高校修学旅行生に対する体験授業を行った。

2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	A （中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
-----------	--------------------------------------

中期計画記載 11項目のうち、Ⅳ評価（中期計画を上回って実施している。）が2項目、Ⅲ評価（中期計画を十分に実施している。）が9項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 柳宗理デザイン関連資料の目録情報の整備等、故柳宗理氏の業績調査研究を深めるとともに研究拠点と発表の場として「金沢美術工芸大学柳宗理記念デザイン研究所」を開設した。
- ・ ユネスコ・クラフト創造都市に関連して「平成の百工比照」収集作成事業を行い、「平成の百工比照－美大があつめたものづくりの技と意匠」展を開催し、これまでの研究成果を公表した。また、教員の研究成果である教員作品を清華大学美術学院（中国）等との交流展で公開した。さらに、「アジア工芸作家等研修支援業務」を通じてアジアからの招聘事業等を実施し、ものづくりに関わる技術交流や人的ネットワークの構築を図った。
- ・ 教員自身の業務把握、また大学が各教員の業務を把握することができる「目標・自己評価シート」を利用した教員の評価制度を新たに構築して各教員の負担の適正化を図り、教員が研究に取り組むための柔軟な研究環境を整えた。

3 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。）
----	------------------------------

中期計画記載8項目のうち、Ⅳ評価（中期計画を上回って実施している。）が3項目、Ⅲ評価（中期計画を十分に実施している。）が5項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

○ 特筆すべき点

- ・ 企業、公共団体等との連携事業である産学連携事業及び地域連携事業を積極的に実施した結果、数多くのプロジェクト、商品開発等を行った。また、その成果について「金沢美術工芸大学のちから～社会連携のあゆみとその実績～」等を開催し、全国へ発信した。
- ・ 地元商店街に大学の情報を発信する拠点として「アートベース石引」を開設した。その施設を活用して専攻、研究室及び学生の自主的な制作の発表を行い、地元商店街の賑わいづくりに貢献した。
- ・ 医療における芸術の潜在的な可能性について調査研究を行う「ホスピタリティ・アート・プロジェクト」を金沢市立病院において毎年度実施し、市民や病院スタッフと積極的に交流を行った。
- ・ 清華大学美術学院（中国）との交流展を開催したほか、バッファロー美術大学（アメリカ）、ナンシー国立美術大学（フランス）及びナント美術学校と正式な交流協定を締結した。また、アジア諸国との芸術交流を図るアジア工芸教育交換プログラムを実施した。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。)
----	-------------------------------

中期計画記載12項目全てがⅢ評価(中期計画を十分に実施している。)であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

- 特筆すべき点
 - ・ 大学運営や教育研究活動を効果的かつ効率的に推進するため、教員と非常勤職員の雇用形態について検討するだけでなく、退職した教員を専任として初めて再雇用した。また美術モデルの雇用条件についてこれまでの方式を改め、専攻が必要とするモデルについては加重して賃金を配分する方式に変更した。さらに、平成22年度に策定した法人職員採用計画に基づき、法人職員を採用した。
 - ・ 教職員に対して多様な活動や業績を適正に評価するための仕組みを整えた。

5 財務内容の改善に関する目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。)
----	-------------------------------

中期計画記載10項目全てがⅢ評価(中期計画を十分に実施している。)であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

- 特筆すべき点
 - ・ 平成23年4月に教育研究基金を創設した外、新たな仕組みとして「かなびサポーター」制度を作り、広く一般の方からの寄付金を募る体制を構築した。

6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。)
----	-------------------------------

中期計画記載5項目全てがⅢ評価(中期計画を十分に実施している。)であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

- 特筆すべき点
 - ・ 自己点検・評価の機能を大学運営に反映できるよう自己点検・評価実施運営委員会において大学基準協会が定める全ての点検・評価項目について「改善計画書に関する達成状況について」を作成した。
 - ・ 広報力を強化し、大学のブランドイメージを高める広報戦略プランに基づき、「金沢美術工芸大学VI(ビジュアル・アイデンティティ)計画」を策定し、大学広報誌等に導入した。

7 その他業務運営に関する重要目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。)
----	-------------------------------

中期計画記載10項目全てがⅢ評価(中期計画を十分に実施している。)であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

- 特筆すべき点
 - ・ 学外からの支援体制を充実させるために企業、銀行、協同組合等と教育・研究の推進並びに地域社会の発展・活性化及び人材の育成・交流に寄与することを目的とした包括連携協定や街づくりに関する協定を締結し、所期の目的達成に向けて具体的な取組に着手した。

- ・ 卒業生や同窓会と連携して、「2011東京銀座・金沢・ニューヨーク」大展示会を開催し、また同展示会等の開催に際して連携協定企業から助成金の支援を受けるなど大学支援組織等との連携を強化した。